

# 平成 30 年ホヤ類調査結果速報 No. 5

平成 30 年 11 月 6 日

発行：北海道立総合研究機構函館水産試験場

実施機関：渡島地区水産技術普及指導所、渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所、北海道立総合研究機構函館水産試験場

北海道立総合研究機構栽培水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見るすることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

9月13日～10月23日に噴火湾周辺沿岸の各地区に（図1）において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

## 結果概要

- 調査を行った全地区でヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図2、3）。
- 付着個体数は長万部、八雲地区で多く、付着重量は虻田～八雲地区で重くなっています（図2、3）。
- 過去（H24-29）の平均値と比較すると、全ての地区で今年の付着個体数が下回っており、今年は全体的に付着量が少ないと言えます（図4）。
- 体サイズは10～35mmの個体が中心となっています。長万部、八雲地区は虻田、礼文地区よりも付着重量は軽いですが、付着個体数は多く、比較的小型の個体の割合も高いため、今後の重量増加に注意が必要です。（図5）。
- 過去のデータでは、この時期のホタテガイ1枚あたりの付着個体数が10個体程度でもその後のホタテガイの成長に悪影響が出ることが確認されています。一定の付着が見られる湾奥部では、状況に応じて付着物除去（貝洗い）を進めて下さい。

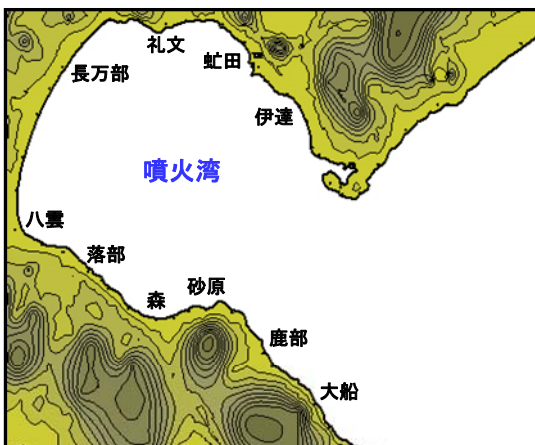


図1 調査地区の位置図

調査期間：平成 30 年 9 月 13 日～10 月 23 日

各地区の調査担当機関

伊達～礼文：胆振地区水指、栽培水試

長万部～鹿部：渡島北部地区水指、函館水試

大船：渡島地区水指

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池  
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

# 耳吊りホタテガイ付着物調査

ホタテガイを1連から上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼による観察により、付着物の識別、採取を行いました。ヨーロッパザラボヤおよびその他付着物の重量測定、ヨーロッパザラボヤ個体数の計数および体サイズ測定を行いました。なお、八雲地区は9月20日（渡島北部地区水指）、10月15日（函館水試）の2回調査を行っています。

## 1) 付着個体数と付着重量

ヨーロッパザラボヤの付着個体数は八雲～長万部地区で多くなっています（図2）。一方、ヨーロッパザラボヤの付着重量は湾奥の虻田～八雲地区で高い値となっています（図3）。イガイ類、キヌマトイガイの付着により、その他重量が高い値となっている地区も見られます。全ての地区で過去（H24-29）の平均値よりもヨーロッパザラボヤの付着個体数は少ないです（図4）。

図2 各地区のヨーロッパザラボヤの付着個体数（平成30年9月13日～10月23日）

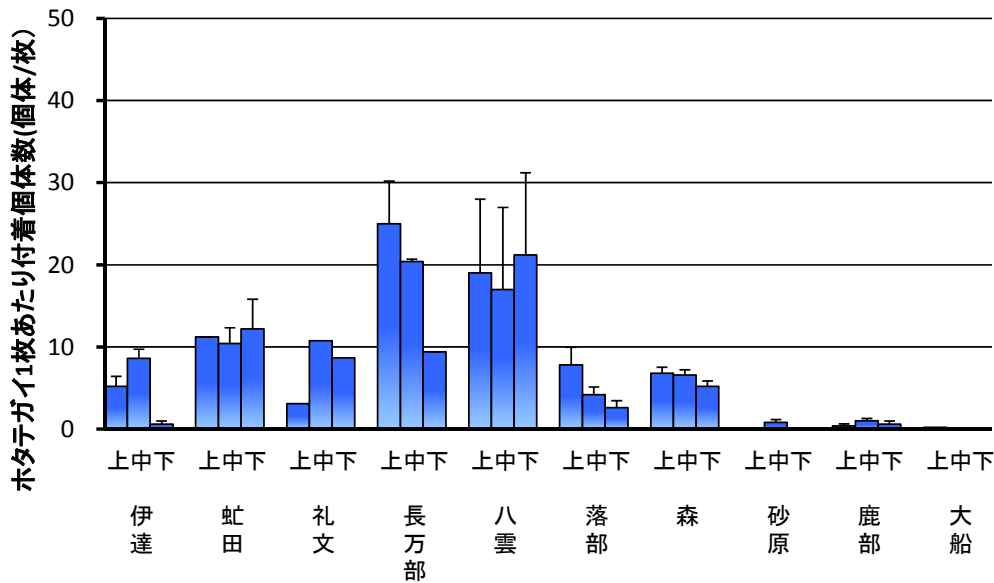


図3 各地区の付着生物重量（平成30年9月13日～10月23日）

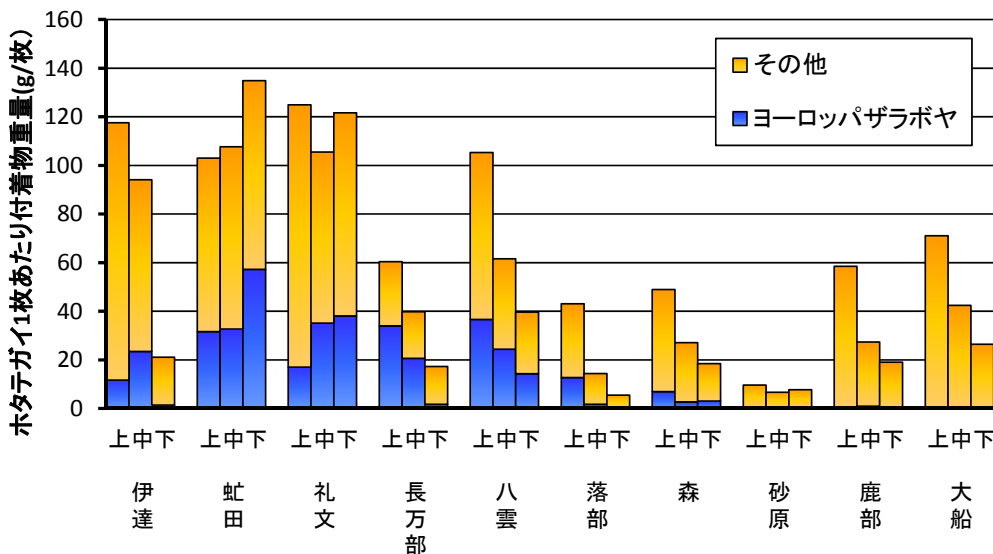
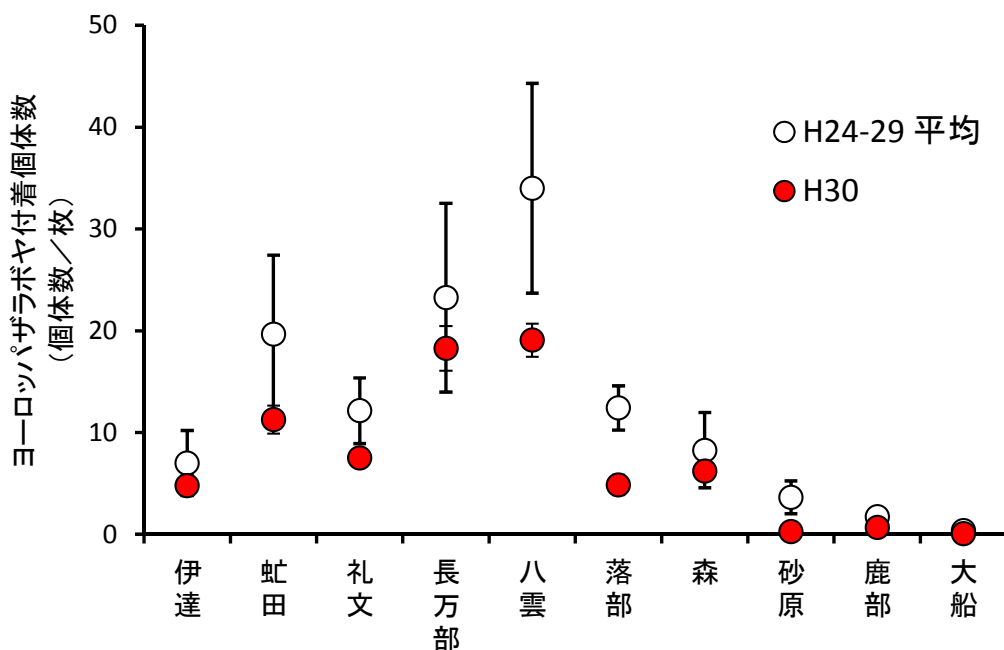


図4 ヨーロッパザラボヤ付着個体数（3層平均）の過去のデータとの比較



縦棒は標準誤差。各年の調査期間は以下のとおり。H24：10/9-22、H25：10/9-29、H26：9/16-10/2、H27：9/14-10/6、H28：9/20-10/25、H29：9/15-10/19。また、H26 大船地区、H27 落部、砂原地区は欠測。

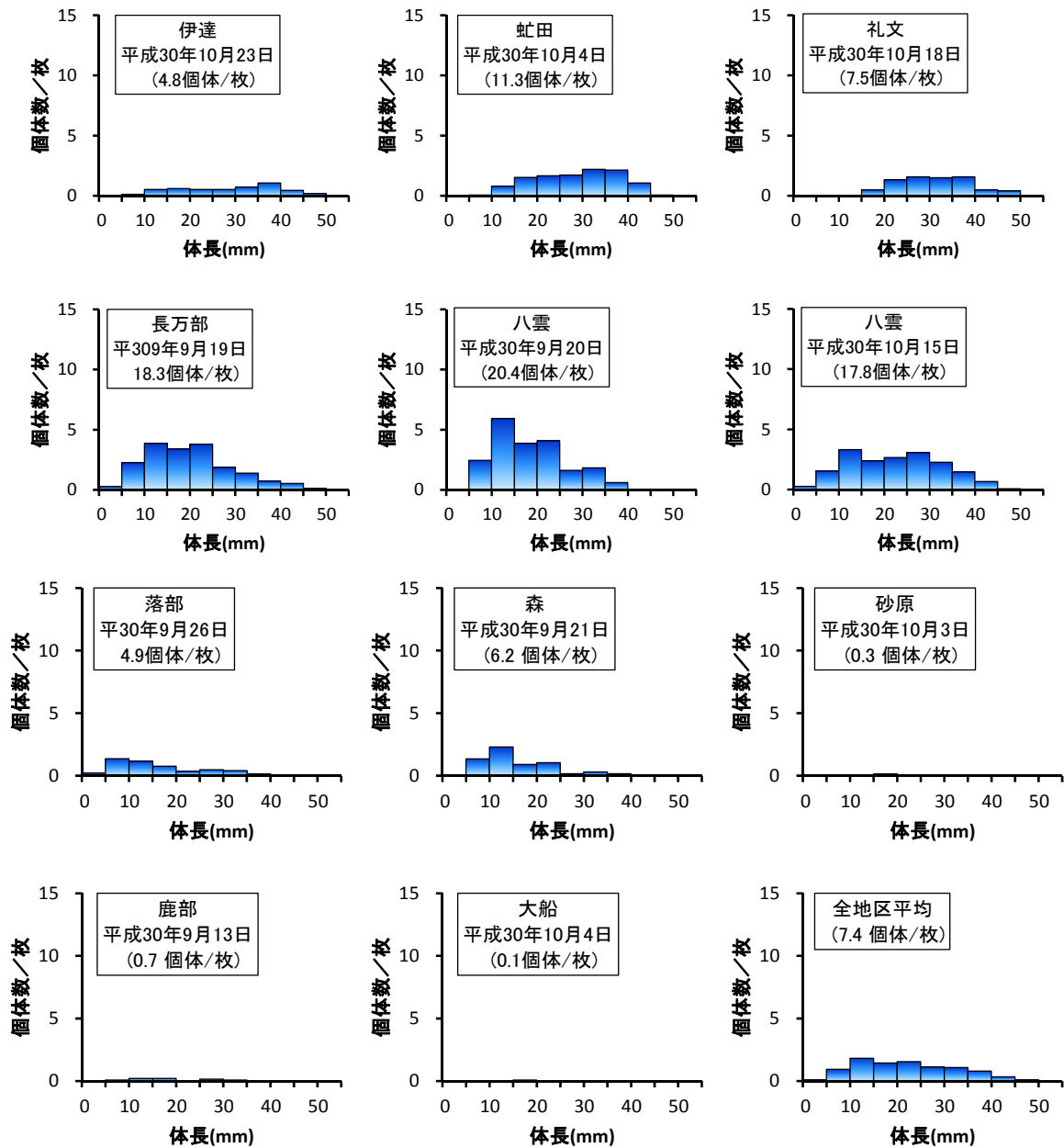
ヨーロッパザラボヤは、内湾や入り江などの静穏域に大規模な個体群を形成します。噴火湾でも養殖ホタテガイへの付着は静穏な湾奥部で多くなる特徴があります。また、夏～秋に付着したヨーロッパザラボヤは、一部個体はその年の秋から繁殖を開始し、越冬後、次の夏～秋にほとんどの個体が本格的な繁殖を行います。従って、耳吊りの状態で翌年の夏まで養殖する場合は、耳吊りした年の秋に付着物除去（貝洗い）をしっかりと行う事が翌年のヨーロッパザラボヤの発生抑制のためにも重要だと考えられます。

## 2) サイズ組成

養殖ホタテガイに付着しているヨーロッパザラボヤのサイズ組成は、全地区平均で見ると10～35mmが約75%を占めています（図5）。地区別に見ると胆振側（伊達～礼文）では30mm未満の個体の占める割合が約50%に対して、渡島側（長万部～森）では30mm未満の個体の占める割合は約80%と高くなっています。渡島側の調査の方がやや早かった影響もありますが、10月15日に実施した八雲地区の調査でも30mm未満の個体の占める割合は約75%でしたので、渡島側の方が小型個体の占める割合が高いと考えられます。

今回の調査では、胆振側湾奥部の虻田、礼文地区の方が渡島側湾奥部の長万部、八雲地区よりも付着重量が重い結果でしたが、今後は、付着個体数が多く、比較的小型の個体の割合が高い渡島側湾奥部の方が、付着個体の成長に伴い、重量増加が顕著となる可能性があり、注意が必要と考えられます。

図5 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成



### 参考文献

北海道におけるヨーロッパザラボヤの分布状況とその特徴について、以下の文献を公表しています。

- ・金森誠・馬場勝寿・近田靖子・五嶋聖治 (2014) : 北海道における外来種ヨーロッパザラボヤ *Ascidella aspersa* (Müller, 1776) の分布状況. 日本ベントス学会誌 69(1) : 23-31.  
(URL : [https://www.jstage.jst.go.jp/article/benthos/69/1/69\\_23/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/benthos/69/1/69_23/_pdf))